

Title	ポケトークの実力とこれからの英語教育
Author(s)	森田, 雅義
Journal	歯科学報, 119(5): 443-443
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10130/5010">http://hdl.handle.net/10130/5010</a>
Right	
Description	

## 特別講演 1

## ポケトークの実力とこれからの英語教育

東京歯科大学語学研究室教授 森田 雅義

最近の翻訳アプリ・翻訳機の進化には目を見張るものがある。特に2020年の東京オリンピック・パラリンピックの開催が決定してからは、更にその進化の速度を増している。私が今まで知っていた翻訳アプリと言え、せいぜい Google 翻訳か Weblio 翻訳くらいのものであった。しかもその精度という点、例えば日本語から英語へと翻訳された英文は、だいたいの内容は伝わりそうではあるが、まだまだいろいろな誤訳や珍訳があったように記憶している。ところが、ある研修会の関係で、改めて翻訳アプリ・翻訳機を試してみると、その進化にたいへん驚かされたのである。

私自身、英語教師という職業柄、翻訳アプリとか翻訳機は、自らは取り扱ってはならないものとして認識していた、いやそう思おうとしていたのかもしれない。しかしながら、どうやらその進歩は気が付かないうちに、私の想像をはるかに超えるレベルにまで達していたようで、もしかしたら今後の英語教育にも何らかの影響を及ぼす可能性もあるように感じる。

ポケトークという翻訳機がある。TV コマーシャルでも紹介されているので、ご存じの方も多いことだろう。このポケトークの売り上げは、今年の4月時点で累計出荷台数40万台を越えたそうである。まさに爆発的な売れ行きである。皆さんの中にも持っている方がおられるかもしれない。そのポケトークの謳い文句は、

「ソースネクストの『POCKETALK (ポケトーク)』は、74言語対応の夢の AI 通訳機。互いに自国語のまま対話できる双方向の音声翻訳機です。」(ソースネクストのホームページより)

とある。もし、このとおりだとしたら、今まで日本人の多くが苦勞を強いられてきた英語学習も、ぐっと楽になるかもしれない。

今回私は、私にとってある意味「禁断の果実」であるポケトークを通して、果たしてそれがどれくらいの実力があるのか、ポケトークを使ってどのようなことが出来るのか等について検証してみると同時に、ポケトークの新たな使い方や活用法を探ってみたいと思う。更には、このような翻訳アプリや翻訳機が今後どのように進化し、またこれからの英語教育にどんな影響を与えていくのかについても考察してみることにする。

## 《プロフィール》



## ＜略歴＞

昭和52年3月 上智大学外国語学部英語学科卒業  
 昭和53年4月～平成3年3月  
 千葉県内の高等学校にて英語の教員として勤務  
 平成4年4月～平成5年3月  
 英語担当教員英国長期研修参加 (英国バーミンガム大学大学院)

平成5年4月～平成12年3月  
 千葉県内の高等学校にて英語の教員として勤務  
 平成12年4月～平成14年3月  
 千葉県教育庁指導主事  
 平成14年4月～平成18年3月  
 千葉県立成田国際高等学校教頭  
 平成18年4月 東京歯科大学英語研究室助教授として赴任  
 平成19年4月 東京歯科大学英語研究室准教授 (職名変更)  
 平成25年7月 東京歯科大学英語研究室教授  
 平成25年～ 東京歯科大学英語研究室主任  
 平成29年4月 東京歯科大学語学研究室教授 (研究室統合による名称変更)  
 平成29年～ 東京歯科大学語学研究室主任